

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】令和7年2月6日(2025.2.6)

【公開番号】特開2022-176896(P2022-176896A)
 【公開日】令和4年11月30日(2022.11.30)
 【年通号数】公開公報(特許)2022-220
 【出願番号】特願2022-72650(P2022-72650)
 【国際特許分類】

C 0 9 D 1 3 3 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

10

C 0 9 D 1 3 3 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)

【 F I 】

C 0 9 D 1 3 3 / 0 0

C 0 9 D 1 3 3 / 0 2

【手続補正書】

【提出日】令和7年1月29日(2025.1.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

液状のコーティング組成物から形成された塗膜保護コート材であって、
 前記コーティング組成物は、アクリル系モノマーを含むモノマー成分の重合物であるポリマー(A)をベースポリマーとして含み、
 前記ポリマー(A)のSP値が $9.8(\text{cal}/\text{cm}^3)^{1/2}$ 以上であり、かつ
 前記ポリマー(A)は、該ポリマー(A)を構成するモノマー成分の組成に基づいて計算されるガラス転移温度が0以下である、塗膜保護コート材。

30

【請求項2】

前記ポリマー(A)の酸価が $15\text{mg KOH}/\text{g}$ 以下である、請求項1に記載の塗膜保護コート材。

【請求項3】

70における貯蔵弾性率が 0.40MPa 以上である、請求項1または2に記載の塗膜保護コート材。

【請求項4】

前記ポリマー(A)を構成するモノマー成分は窒素原子含有モノマーを含む、請求項1または2に記載の塗膜保護コート材。

【請求項5】

40

前記ポリマー(A)は、該ポリマー(A)を構成するモノマー成分の組成に基づいて計算されるガラス転移温度が -20 以上である、請求項1または2に記載の塗膜保護コート材。

【請求項6】

前記ポリマー(A)を構成するモノマー成分は、炭素原子数1~3のアルキル基をエステル末端に有するアルキル(メタ)アクリレートと、カルボキシ基含有モノマーと、を含む、請求項1または2に記載の塗膜保護コート材。

【請求項7】

請求項1または2に記載の塗膜保護コート材を形成するために用いられる、コーティング組成物。

50

【請求項 8】

前記ポリマー（A）が水性溶媒に分散している水性エマルション形態の組成物である、請求項 7 に記載のコーティング組成物。

【請求項 9】

請求項 7 に記載のコーティング組成物を準備すること、

塗膜を有する保護対象物の該塗膜上に前記コーティング組成物を塗布すること、および

、
前記コーティング組成物を乾燥させて前記塗膜を一時的に保護する塗膜保護コート材を形成すること、
を含む、塗膜保護方法。

10

【請求項 10】

前記コーティング組成物の塗布はスロットダイにより行う、請求項 9 に記載の塗膜保護方法。

20

30

40

50